

# ネパール国際協力協同プロジェクト 行動報告書



2002年8月29日～9月18日

Youth Scout Group Pax IV Hyper

## 目次

### 1. 派遣の概要

#### 1>概要

#### 2>経緯

ネパール果樹植林プロジェクトについて  
準備訓練・富士山エコ・フォーラムについて  
国際協力プロジェクトについて  
ユースエベレスト環境視察について

#### 3>目的

### 2. 派遣員

### 3. 予定日程

### 4. 実施行程

### 5. 行動記録

### 6. 全体評価・反省

### 7. 総括

## 1. 派遣の概要

### <1>概要

- 1>事業名: ネパール国際協力協同プロジェクト  
2>責任者: 鈴木友浩(神奈川連盟横浜第87団カブ隊副長)  
関係団体: ユーススカウトグループ/Pax IV Hyper  
HAT-J(日本ヒマラヤンアドベンチャートラスト)  
Kantipur Open Rover Crew  
Bhaktapur のローバースカウト  
3>渡航期間: 2002年8月29日(木)~9月18日(土) 21日間  
4>プロジェクト実施地: ネパール王国 (カトマンズ、キルティブル、バクタプル)  
中華人民共和国チベット自治区 (チョモランマ・ベースキャンプ)

8月31日にネパールに入国し、その後約1週間をネパール連盟ローバースカウトとともに、カトマンズ近郊の村落を対象にした国際協力プロジェクトを実施した。9月8日にカトマンズ市内でHAT-J スタッフと合流し、HAT-J が実施するユースエベレスト環境視察プロジェクトに提携という形で参加した。

### <2>プロジェクトの経緯

#### ネパール果樹植林プロジェクトについて

- 実施期間: 2002年3月22日~3月30日  
実施先: ネパール王国 カトマンズ近郊、ルクラ周辺チョプロン村  
責任者: 神奈川連盟横浜第87団 鈴木 友浩  
派遣員: 東京連盟目黒第1団 市河 靖弘  
千葉県連盟富里第1団 岡村 恒紀  
目的: 環境問題に対処するための活動(植樹)を実際に経験し、学習すること。  
青年参画プロジェクトとして、ネパール国内における日本・ネパール両国ローバースカウトによる新しいプロジェクトを提案し議論すること。  
実施結果:

このプロジェクトは、登山家田部井淳子氏が主催するNGO団体「HAT-J」が1997年にエベレスト街道の玄関口であるが、観光以外に収入手段のないルクラにリンゴ産業を起こすという目的のもと始めた「アップルプロジェクト」について、ボーイスカウト日本連盟から2名のスカウトが参加し、プロジェクトの企画運営から現地でのプロジェクト実施、事後活動にいたるまで、HAT-Jの運営部に協力するという形で行われた。

ネパール入国後は、HAT-Jのアップルプロジェクトの進行と、ボーイスカウトネパール連盟とのミーティングやプログラムが同時に行われたが、柔軟に対処し、時に両者のコミュニケーションの場を設けることで、プロジェクト期間中のスケジュールは円滑に遂行された。

このアップルプロジェクトは、プロジェクトリーダーをHAT-J理事長、神崎忠雄氏が務め、スカウト2名は氏と行動を共にしながら、プロジェクトの運営に携わった。また、神崎氏自身もボーイスカウトのスケジュールに参加し、HAT-Jとボーイスカウトの協力関係の発展に大きく寄与した。

#### 準備訓練・富士山エコ・フォーラムについて

実施期間： 2002年7月6・7日

場 所： 富士山麓 朝霧野外活動センター、富士宮市、富士吉田市

主 催： 国際山岳年日本委員会（Pax IV HyperはHAT-J側スタッフとして参加）

目 的： ・富士山エコ・フォーラムの運営補助  
・富士登山によるエベレストへの高度順応  
・参加の子供たちのプログラム運営

内 容：

9月に実施するユースエベレスト環境視察へ向けての高度順応と、HAT-Jへの協力のために国際山岳年日本委員会が主催する富士山エコ・フォーラムに参加した。朝霧野外活動センターで行われた、小・中学生対象のキャンププログラムを企画し、その運営を行った。

富士登山に関しては台風のため運営本部から中止との告知があり周辺の軽登山にとどまった。

また、8/16・17に再度ネパール派遣員にて富士登山を企画したが、こちらも台風のため全員の登頂できなかった。

#### 国際協力プロジェクトについて

上記ネパール果樹植林プロジェクトにてネパールスカウトとの話し合いの機会を得て、検討の結果今回のプロジェクトを実施するに至った。その際の話し合いの中でのネパールのニーズとしては以下のことがあげられた。

- ・環境問題に対するプロジェクト(植林や清掃など)
- ・教育問題に対するプロジェクト(識字率や就学率の問題)
- ・衛生問題に対するプロジェクト(プライマリーヘルスケアの啓蒙など)

これらに関連したものを調査した上で、日本とネパール両国のローバースカウトが提携して今回は植樹プロジェクトを試行し、次回からの土台とすることとした。

また、これらの国際協力プロジェクトは、カトマンズ近郊で提携して行うのでアフターケアをネパールスカウトに任せられる。

そして、ネパールローバーとの協力により今後継続して活動していくことでより多くの情報を得ることができる。

## ユースエベレスト環境視察について

今回のユースエベレスト環境視察プロジェクトは、HAT-J との2回目の協同プロジェクトとなった。HAT-J は去年から主にヒマラヤ地域の自然環境を考えることで、青少年教育についても熱心に活動しており、ユーススカウトグループPax IV Hyperが現在積極的に取り組んでいるいくつかのテーマとニーズが一致したため、今後共同でプロジェクトを行っていく旨を合意した。

HAT-J は、これまでに日本、中国、ネパールにおいて9回実施し、今回は国際山岳年ということで世界最高峰であるエベレストでのプロジェクトを企画した。Pax IV Hyperは前回のアップルプロジェクトに続きHAT-J 側のスタッフとして参加した。

### <3>目的

#### ネパール国際協力プロジェクト

- ・カトマンズ近郊部落の生活環境の向上
- ・自然環境保護活動
- ・ネパールの人たちとの国際文化交流
- ・ネパール連盟スカウトと提携した国際協力
- ・プロジェクトの継続性

#### ユースエベレスト環境視察プロジェクト

HAT-J では、2002年の国際山岳年を記念して、「国際山岳年記念ユースエベレスト環境視察」を実施する。

現在エベレストのベースキャンプは登山家たちの残したゴミが、周囲の環境に影響を与え、深刻な問題となっている。アジア各国の大学生を対象に募集し、エベレストベースキャンプの視察を行う。

HAT-J としてのプロジェクトの目的は以下の通りである。

- ・世界最高峰のBC 視察によりアジアの青少年に山岳環境への問題意識をもってもらう
- ・登山の魅力を青少年に理解してもらう

またこのプロジェクトにおいて、日本ローバーの目標は以下の通りに定めた。

- ・プロジェクトにおいて、リーダーシップを発揮し、参加者をまとめる
- ・スカウティングの経験を活かし、プロジェクトが円滑に行われるよう努める
- ・スカウト以外のユース年代との意見交換

## 2. 派遣員

氏名	所属	職業	クルー役務
鈴木友浩	神奈川連盟横浜87団 カブ隊副長	自営業	アドバイザー
岡村恒紀	千葉連盟富里第1団 ボーイ隊副長	法政大学3年	クルーリーダー
榊原隆陽	愛知連盟半田第3団 ローバー隊	日本福祉大学4年	プロジェクト サブリーダー
梅本誠子	愛知連盟名古屋第87団 ローバー隊	東京農工大学1年	会計
大田黒紀人	東京連盟東久留米第1団 ローバー隊	学習院大学3年	渉外
三木香恵	東京連盟港第3団 ローバー隊	慶応義塾大学2年	記録
伊賀 祥一	神奈川連盟座間第1団 ローバー隊		装備・生活

### 3. 予定日程

日時	時刻	場所	宿泊	内容	詳細
8月29日	19:10 発	成田		TG773にて空路バンコクへ	12:00に成田空港第2旅客ターミナル中央口集合
	23:40 着	バンコク	バンコクセンターホテル	プロジェクト最終打ち合わせ	Paxミーティング
8月30日	午前	バンコク			プロジェクト実施詳細会議・プレゼンリハーサル
	午後				自由行動
	夜		メンバー壮行夕食会		
8月31日	10:30 発	バンコク		TG319にて空路カトマンズへ	機内
	12:35 着	カトマンズ	富士ゲストハウス	ネパールスカウトとプロジェクト協議・交流会	ネパールスカウトと顔合わせ・打ち合わせ
夜	交流会				
9月1日	午前	カトマンズ		ネパールスカウトとの会議	熊野との植樹プロジェクト打ち合わせ
	午後				アップル報告、環境プロプレゼン
	夜				Paxミーティング
9月2日	午前	カトマンズ		環境視察	市内、郊外を視察
	午後				Paxミーティング
	夜				
9月3日	午前	バクタブル		バクタブルとの新プロジェクト	バクタブルローバーとの協議
	午後				Paxミーティング
	夜				
9月4日	午前	バルワ		植樹プロジェクト実施	バルワ村の熊野森林文化国際交流会の敷地にて植樹プロジェクト実施
	午後				Paxミーティング
	夜				
9月5日	午前	バルワ		植樹プロジェクト実施	バルワ村の熊野森林文化国際交流会の敷地にて植樹プロジェクト実施
	午後				Paxミーティング
	夜				
9月6日	午前	カトマンズ		ローバープロジェクト実施	カンティブルもしくはバクタブルとのプロジェクト実施
	午後				
	夜				
9月7日	日中	カトマンズ			Paxミーティング
	夜				
9月8日	午前	カトマンズ		ネパールスカウトと今後のプロジェクト協議・調印	実施現状報告と調印式

ネパール国際協力共同プロジェクト

	午後				HAT - Jと合流
	夜				ホテルヒマラヤ
9月9日		ザンムー	ホテル	出入国手続き 標高 2350m	HAT-Jのプログラムに参加
9月10日		ザンムー	ロッジ	標高 3750m	
9月11日		ニエラム	ロッジ	高度順応のため周辺ハイキング	
9月12日		ニエラム	ロッジ	標高 4300m	
9月13日		ティンリ	ロッジ	標高 5000m	
9月14日		ロンブク僧院	ロッジ	標高 5150m	
9月15日		ティンリ	ロッジ		
9月16日		ザンムー	ホテル	出入国手続き	
9月16日		カトマンズ	ホテルヒマラヤ		
9月17日	13:40発	カトマンズ	機内泊	TG320にて空路バンコクへ	
9月17日	18:10着	バンコク			
9月17日	23:10発	機内			
9月18日	7:30着	成田		TG642にて空路成田へ	

## 4. 実施行程

日時	時刻	場所	項目
8月29日	12:00	成田国際空港	集合
	17:13	成田国際空港	出発セレモニー
	18:53	成田国際空港	バンコクへ向けて出国
	12:01	バンコクドンムーンア空港	バンコク到着
8月30日		バンコク	今後のネパールスカウトとの協議に関する打ち合わせをし、市内にて不足備品の買出し。
	11:00	バンコクドンムーンア空港	空路カトマンズへ
8月31日	12:36	カトマンズトリバン空港	カトマンズ到着
	午後	カトマンズ・NHQ	今後の予定に関して会議
9月1日		バクタプル	環境視察 (ゴミサイト・ゴミ集積所・上水施設)
	午前		バクタ氏訪問
	午後	カトマンズ・NHQ	アップルプロジェクト、今回のプロジェクト案、植樹方法に関して会議
9月2日		カトマンズ	環境視察
	午前		(バグマティ川・下水処理施設)
9月3日	午後	カトマンズ	会議
	午前	カトマンズ近郊	トレーニングセンター訪問
9月4日	午後	カトマンズ	自由行動
	午前	キルティプル	植樹
9月5日	午後	キルティプル・バクタプル	植樹
	午前	バクタプル	植樹
9月6日	午後	バクタプル・DHQ	会議
	午前	バクタプル	観光・バクタ氏による昼食招待
		バクタプル	カルチャープログラム
	午後		救援物資受け渡し
9月7日	午後	カトマンズ	バクタプル市長と会談
	午前	カトマンズ	自由時間
	午後	カトマンズ・NHQ	今後の活動詳細についての確認を取り、今回のプロジェクトの締めを行う。その後移動し日本文化レセプション

9月8日		カトマンズ	HAT-J と合流
9月9日		ザンムー	
9月10日		ニエラム	
9月11日		ニエラム	
9月12日		ティンリー ロンブク僧院	ユースエベレスト環境視察
9月13日		ヒマラヤ ベースキャンプ	
9月14日		ザンムー	
9月15日		カトマンズ	
9月16日	午後 14:06	カトマンズ カトマンズトリブバン空港	HAT-J 環境フォーラム 空路バンコクへ出発
9月17日	16:23 23:14	バンコクドンムーア空港 バンコクドンムーア空港	バンコク着後トランジットの時間を使い夕食、帰国後の活動打ち合わせ 帰路へ
9月18日	7:07 9:24	成田国際空港 富里第1 団ルーム	到着。花岡婦人、青木、市河の出迎えをうけ、富里1 団団ルームへ移動 解散セレモニー

## 5. 行動記録

### 行動記録概要

日時	時刻	場所	項目	交通	宿泊
8月29日	12:00	成田国際空港	集合		
	17:13		出発セレモニー		
	18:53		離陸	TG773	
8月30日	12:01	バンコクドムーア空港	着陸		バンコクセンターホテル
8月30日	終日	バンコク	プロジェクト準備	タクシー	
8月31日	11:00	バンコクドムーア空港	離陸	TG319	
	12:36	カトマンズトリバン空港	着陸		
	午後	カトマンズ・NHQ	会議	徒歩	
9月1日	午前	バクタプル	環境視察 (ゴミサイト・ゴミ集積所・ 上水施設) バクタ氏訪問	タクシー	フジゲストハウス
	午後	カトマンズ・NHQ	会議	徒歩	
9月2日	午前	カトマンズ	環境視察 (バグマティ川・ 下水処理施設)	タクシー	
	午後		会議		
9月3日	午前	カトマンズ近郊	トレーニングセンター 訪問	タクシー	
	午後	カトマンズ	自由時間	バス	
9月4日	午前	キルティブル	植樹	バス	
	午後	キルティブル・バクタプル	植樹		
9月5日	午前	バクタプル	植樹	バス	
	午後	バクタプル・DHQ	会議		
9月6日	午前	バクタプル	観光・バクタ氏による昼 食招待	バス	
	午後		カルチャープログラム 救援物資受け渡し バクタプル市長と会談		
9月7日	午前	カトマンズ	自由時間	徒歩	
	午後	カトマンズ・NHQ	会議 日本文化レセプション		
9月8日		カトマンズ	HAT-Jと合流	タクシー	ホテルヒマラヤ
9月9日		ザンムー		バス	樟木飯店
9月10日		ニエラム			ニエラムのロッジ
9月11日		ニエラム			ニエラムのロッジ
9月12日		ティンリー			ティンリーのロッジ
9月13日		ロンブク僧院 ヒマラヤ ベースキャンプ	ユースエベレスト環境視察	ランドクルーザー	ロンブク僧院
		ザンムー			バスマのロッジ
9月14日		ザンムー			樟木飯店
9月15日		カトマンズ		バス	
9月16日	午後	カトマンズ	HAT-J環境フォーラム		ホテルヒマラヤ
9月17日	14:06	カトマンズトリバン空港	離陸	TG320	
	16:23	バンコクドムーア空港	着陸		
	23:14	バンコクドムーア空港	離陸	TG642	
9月18日	7:07	成田国際空港	着陸		機内
	9:24	岡村の団ルーム	解散セレモニー	自家用車	

## 行動記録報告

8月29日

時間は全て現地時間とする。

時間	場所	項目	詳細
12:00	成田第二ターミナル中央口	集合	
12:10	空港内レストラン	昼食	
14:03	空港	自由時間・買い物	足りない備品を購入する。
14:41	空港内レストラン	名刺配布	鈴木が作成したものを配布した。
15:15	空港内レストラン	離陸までの予定を確認	チェックインの後出発セレモニーを行い入国審査を受ける
		バンコクでの予定を確認	バンコク ホテル(タクシー)・部屋割り・会計・タイ人スカウトとの会談
17:00	チェックインカウンター	チェックイン・荷物を預ける	予定より少し早めのチェックインをする。
17:13	セレモニー会場・空港	出発セレモニー	花岡さん、岡村(母)、市河。
17:25		写真撮影	
17:50	空港	出国審査	
18:10		食事 自由時間	最後の日本での食事。
18:30	空港内シャトル乗り場	集合	
18:53	搭乗口	搭乗手続き・離陸	TG773便。観光客で機内はほぼ満席であった。
21:00	機内	食事	タイ風味の機内料理。
12:01	バンコク	バンコク、ドンムーア空港着	時差 = 2時間。
1:00	タクシー乗り場	タクシー2台で移動	リムジンタクシーより格安のメータータクシーを利用。値段は乗車前に窓口で交渉す
1:30	バンコクセンターホテル	ホテル着	概観はビジネスホテルのようである。部屋に荷物を運び整理する。
2:00	ホテルの部屋	Pax ミーティング	次の日の予定の打ち合わせ。夜も更けていたので速やかに就寝準備に入る。
2:14	各自の部屋	就寝	
<b>体調不良者</b>			
なし			
<b>評価反省</b>			
出発セレモニーでスマートな動作が統一されていなかった。 まとまりのあるスムーズな出入国手続きができた。			
<b>総評</b>			
時間など、要所要所で時間をもっと有効活用できた。			

## 行動記録報告

8月30日

時間	場所	項目	詳細
7:00	バンコクセンターホテル	起床	
8:00	ホテルロビー	集合	
8:13	ホテルレストラン	朝食・打ち合わせ	午前中のミーティング場所を確保する。
9:00	ホテル会議室	ミーティング	ネパールに着く前のミーティング。 【内容】 1) クルー動作の統一 2) プロジェクト内容、達成事項の確認
11:06		休憩	
11:20		ミーティング	前半のミーティングを踏まえてまとめをした。 【内容】 1) なぜネパールに来たか 2) 何をしにきたのか
12:20	各自の部屋	休憩・身じたく	
12:30	ホテルロビー	集合	ホテルの周りを歩きトゥクトゥク(タイ式小型タクシー)で移動。
13:26	サイアムスクエア	昼食 買い物	タイに来たのでタイ料理派と食事の安全面を考慮したピザハット派で分かれ食事。その後、買い物は2人組みで移動 全体装備の不足分(衣料品)を購入
15:00	サイアムスクエア	集合	トゥクトゥクでホテルに移動。
15:21	バンコクセンターホテル	到着	
15:45	ホテルの一室	ミーティング	英語資料(スケジュール・プレゼン)作成、プレゼン練習。英語を使った慣れないプレゼンなので、入念な準備をした。
17:20		タイ人スカウトのマチコさんが訪問	マチコさんは13NJで知り合いになった高校生である。出発前にコンタクトがあり、再会の機会を得た。英語力のかかなりあるマチコさんにプレゼンを聞いてもらいアドバイスをまちこさんのお父さんにタイスキの食べられる店を教えてください
18:40	ホテルロビー	マチコさんと別れる	
18:45		集合	トゥクトゥクでレストランに移動
20:00	ココレストラン着	夕食	タイスキでメンバー・壮行夕食会とする。タイスキは日本のしゃぶしゃぶのような料理。
21:30	ココレストラン発	ホテルに移動	トゥクトゥクで移動
22:15	ホテルの一室	Paxミーティング	【内容】 午前中のミーティングの評価反省 ネパールに着く前にクルー全体でまとまった見解を持つ為の良い機会となった。 タスクを分担して作業。アイロンを手に入れ、Tシャツのプリントをするチームはアイロンを時間外の為借りられず断念。その他プレゼン内容の打ち込み・プリントアウト。
23:00	各自の部屋	就寝	
<b>体調不良者</b>			
なし			
<b>評価反省</b>			
タイ人スカウトのまちこさんとの会談は、このプロジェクトをアジアの他の国々に知ってもらう意味で良い機会であった。 昼食を二手に分けたのは、せっかくタイに来たのだからタイ料理を食べたい人と、今後の健康を考えて衛生上安全そうなピザをを好んだ人がいたからであるが、今後大人数の派遣になってくると統一したほうが良いだろう。			
<b>総評</b>			
午前中のミーティングでは、これからネパールでのプロジェクトを実施するにあたっての充実した話し合いになった。各達成事項をクルー内で統一させる事でその後のプロジェクト実施においてスムーズな段取りが組めた。			

## 行動記録報告

8月31日

NHQ = カトマンズにあるネパールスカウト連盟

時間	場所	項目	詳細
6:00	バンコクセンターホテル	起床	
6:30	ホテルレストラン	朝食	レストラン朝食を取る。
7:05	バンコクセンターホテル	チェックアウト	
7:10	ホテル～空港	タクシーを捕まえ空港に移動	できるだけ安い運賃を交渉。空港までの渋滞を考慮してこの時間に出発するが、道路は非常に空いていて、予定時刻より大幅に早く空港に到着した。
7:15	バンコクドムムア空港	到着 チェックイン 空港利用税を払い中に入る	大田黒がギリシャのユースフォーラムで知り合った、タイ人スカウト、ナッツさんがお見送りに来てくれた。
8:45	空港内フードコート	朝食・打ち合わせ 自由時間	軽食を取りながらネパールに到着後の行動確認
9:30		集合	ゲートに移動
10:00	搭乗ゲート	集合	搭乗手続き
11:00	機内	バンコクドムムア空港出発	
12:36	カトマンズトリバン空港	到着 フジゲストまで移動	ネパールスカウト、バクタ氏、フジゲストのドルガさんが出迎えてくださる。出迎えがあるかどうか心配であっただけにクルー全員、彼らと会えて大変喜ぶ。 私達はフジゲストの用意したタクシー2台で移動し、ネパールスカウトもフジゲストハウスまで同行した。
13:10	フジゲストハウス	チェックイン	各部屋にバルコニー、電話、扇風機、コンセント、トイレ、シャワー、2部屋だけはバスタブも付いている。とても日当たりもよく明るいゲストハウスである。
13:15	フジゲスト食堂	ネパールスカウトと顔合わせ・打ち合わせ	自己紹介・日程・プロジェクトの確認、今後の予定の確認 (17:00からNHQで会議出来る事を確認する)
14:50	クルーリーの部屋	荷物整理 打ち合わせ	飲料水と両替をどうするか 17時からの会議で何を決定させるか打ち合わせをした。 【内容】 1) プロジェクトでネパール側のやりたい事とこちらのやりたい事との調整をどうするか 2) 各窓口の確定 3) 日程の確定、本日中に日程を確定させたい。
16:45	フジゲストロビー	集合	徒歩でNHQに移動。ゲストハウスからはとても近く便利である。
17:00	NHQ	会議	打ち合わせどうり会議を進行。出発前にメールで送っていた日本クルーの意見をネパールローパー達は上手く汲み取っておいてくれた為、日程とプロジェクト内容の調整はとてもスムーズに進んだ。 【担当】 総括: 岡村、司会: 大田黒・三木、 一眼レフカメラ: 榊原、ビデオカメラ: 伊賀、 プリント管理: 梅本
19:00		会議終了	徒歩でフジゲストに移動
19:15	フジゲスト	到着	

19:34	フジゲストロビー	ドル ガさんと打ち合わせ	<p>ドルーガさんと熊野森林文化国際交流会での植樹の打ち合わせを行う。</p> <p>【内容】</p> <p>1)9月4日 9時～14時植樹プロジェクト                  ジープ2台各\$60 苗一本55円                  ジープは当初1台\$80であったが、エアコン無しで短時間のレンタルにした所少し値段を抑えることができた。</p> <p>2)毎日の朝食セット\$2</p>
20:15	付近のレストラン	夕食・Paxミーティング	<p>徒歩で移動。</p> <p>【内容】</p> <p>今日の会議の評価反省                  会議は予定通り上手く進んだが、次回の派遣からは日程の詳細まで派遣前に決定しなければならない。                  今回のスケジューリングについて                  ネパールローパーに任せすぎている所もあるが、トゥイニングプロジェクト第一弾としては良いのではないだろうか。</p>
21:30	フジゲストハウス	夕食終了 フジゲストに移動	<p>ドルーガさんより、熊野森林文化国際交流会との植樹活動が土砂崩れのため不可能になった旨を連絡される。植樹日が一日減るので日程面での対応を考える。</p>
22:00		就寝	
<p><b>体調不良者</b> なし</p>			
<p><b>評価反省</b> ネパールの空港で予想外にもたくさんの方に歓迎を受け、その後の打ち合わせまでスムーズに進んで良かった。また、ネパールスカウトとの会議では達成目標が達成することができた。しかし、会議時間が延びてしまい、夕食が遅くなってしまった。</p>			
<p><b>総評</b> ネパールスカウトの大きな協力を得る事ができた。今後の日程における彼らとのトゥイニングプロジェクトに対して大きな期待を抱く事ができた。</p>			

## 行動記録報告

9月1日

DHQ = District Scouts Of Office Bhaktapur

時間	場所	項目	詳細
7:10	フジゲスト	朝食	毎日、ネパール紅茶かコーヒー、パン、タマゴ料理(オムレツ・目玉焼き・スクランブルエッグのいずれか)、ソーセージ、果物が朝食セットとして出された。
8:16	フジゲストロビー	集合 環境視察(バクタプル)	バクタプルスカウトがロビーで出迎えてくれた。
8:45	川辺のゴミサイト	環境視察	【視察内容】日常生活から出るあらゆるゴミが川辺に放置されている。PH値を測定できるキットを持参していたので水質検査をするため川の水を採取した。
9:35	バクタプルのDHQ	DHQ訪問	施設見学・写真を見せてもらう
10:10	ゴミの集積所	環境視察	【視察内容】町中からゴミが集められ、プラスチックと有機物と分別されていた。プラスチックは燃やされ、有機物は堆肥にされる。
10:45	上水施設	環境視察	【視察内容】過去にドイツによって建設されたものだがその後管理されなくなり、技術面で問題が発生すると施設は利用されなくなってしまっ
11:01	Vidhyavikash Secondary School	学校訪問	学校生徒のスカウトが集合・自己紹介。生徒たちは、外国からはるばる来た日本人たちに興味津々で、私達はサインをたくさん求められた。学校にお茶を出していただき休憩・写真撮影
11:52	貯水場・上水場・浄水施設「バスバリー」	環境視察	【視察内容】バクタプルの7千人の住民はこの水を実際飲料水にしている。ポンプで水をくみ上げて遠心力でゴミを取り除いて、沈殿させてうわみずを浄化するが、お金がかかるのでフィルターは利用せずに塩素消毒のみ行っ
12:15	バクタプル入り口	入場料を払う	バクタプル市街に入る為には外国人はお金を払わねばならない。
13:15	バクタプル市内レストラン	昼食	初めてネパール風カレー、ダルバートをいただく。日本人用にアレンジされていたらしく苦手に感じるメンバーもいた。
13:28	Evelest English School	バクタ氏訪問	13NJにいらっしやっていたバクタ氏と再会する。氏は普段は学校の校長先生である。この協同プロジェクトのために色々取り計らってくださった事に感謝し、プロジェクト期間中の日程確認を行った。
14:10		移動 カトマンズへ	バクタ氏のスクールバスにて移動
14:50		到着	
15:10	NHQ	会議	【内容】 1) スケジュールの調整、熊野森林文化国際交流会による植樹ができなくなった対応策 ネパールスカウトは柔軟に対応してくれた。 2) アップルプロジェクトの報告 3) ネパール側のプロジェクト案 4) 2グループに分かれ「植樹」に関するディスカッション 【評価反省】 植樹に対して、相応な意見交換を行うことが出来た。 環境問題についてネパール側の意見を
18:13		会議終了 レストランに移動	徒歩で移動

18:46	レストラン	夕食	以前、岡村がアップルプロジェクトの時に来たレストランを利用した。
20:00	フジゲストハウス	到着	
21:15	鈴木氏の部屋	Paxミーティング	<p>[内容]</p> <p>次の日の予定を確認                  今日の評価反省                  環境視察では、予想していた以上の施設を見ることが出来き、プロジェクトの可能性が広がった。ゴミと浄水、分別、衛生状況などの視点から多くの問題点が発見できた。                  会議では、グループディスカッション形式でみんなが発言しやすい雰囲気を作ることができた。                  プロジェクトコスト                  誰がどれくらい負担するのが適切かについて                  Talkingプログラムについて。                  Talkingプログラムでは日本のゴミ収集システムについて梅本を中心に解説することにした。</p>
22:00	各自の部屋	就寝	
<b>体調不良者</b>			
榊原、扇風機に指を挟み軽い切り傷			
<b>評価反省</b>			
環境視察では、バクタブルの水環境やゴミ問題に関する現状がよく見て取れるプロジェクト地であった。各自がそれぞれ、ネパールローパーと話し、視察場所についての様々な情報を入手する事ができた。会議でのディスカッションでは午前中の環境視察が活かされた。			
<b>総評</b>			
密度の濃い日程にも関わらず、メンバーみなモチベーションをうまく保ったまま一日過ごせた。環境視察ではたくさんの情報が一気に入ってきたのでまとめるのフォーマットを用意して利用すれば良かった。			

## 行動記録報告

9月2日

時間	場所	項目	詳細
7:00	フジゲスト	起床	
8:00	フジゲスト食堂	朝食	
8:51	ロビー	集合	カンティプルローバーが出迎えてくれた。
9:14		出発	カンティプルの用意したタクシー2台にて移動
9:36	バグマティ川	環境視察	【視察内容】 川は生活排水などが原因汚染されている。
9:52	下水処理場	環境視察	【視察内容】 施設の駐在人のタパ氏に解説していただいた。近くにヒンズー教のパシュパティ寺院があり、神聖なバグマティ川の汚染を解消する目的で5年前からの計画で建設された。建設と運営の初期段階は日本の安藤建設が受け持ち、2年間の管理を経て今月末にはネパール政府に受け渡す予定である。
11:45	パシュパティナート	ヒンズー寺院見学	カトマンズ・ヒンズー教の総本山。ヒンズー教徒以外は拝観料を払う。入り口には猿がたくさんいた。別名「猿の寺」とも言う。
12:30		出発 タメル	タクシーにて移動。
13:03	レストラン(タメル)	昼食	サンドイッチ・モモ(餃子のようなチベット料理。焼きモモとフライモモがある。)
13:50		出発 フジゲスト	
14:00	フジゲスト	到着	
14:10	ロビー	集合 NHQにむけて出発	徒歩で移動
14:28	NHQ	到着	
14:38		事務局長らと会談	【内容】 1) 事務局長、国際コミッショナーのお話 2) アップルプロジェクト報告(岡村) 3) プロジェクトの概要説明(榊原) 4) まとめ(鈴木) 最後にネパールスカウト用品をプレゼントされる。
15:31	NHQのスカウトミュージアム	見学	前回アップルプロジェクトに参加した日本人ローバーの残したチーフがケースの中に飾られていた。
16:02	スカウトショップ	買い物	日本へのお土産を購入。
17:15	NHQ	会議	【内容】 1) プロジェクトコスト 2) スケジュールの調整 3) Talkingプログラム「固形ゴミ」について 日本のごみ処理方法の現状を説明した。 4) 水質検査実験 環境視察地などで採取してきた水をその場でテストし、結果としてでたPH値を用意した実験シートの表に書き込む作業をネパールローバーと一緒にいった。
19:02		会議終了 移動	徒歩で移動
19:20	レストラン(タメル)	夕食	
21:15		夕食終了	
22:30	鈴木氏の部屋	Paxミーティング	次の日の予定 一日はまるごと自由時間にしようという日程案も当初あったが、カンティプルローバーがどうしてもトレーニングセンターを私達に見せたいとのこと。私達もなかなか見る事のできない所に足を運べるので楽しみであった。 環境視察で個人個人得た情報を交換し合いまとめた。

<b>体調不良者</b>
なし
<b>評価反省</b>
カンティブルローバーは環境視察のためにタクシーを用意してくれたり、施設見学の段取りを組んでおいてくれたりと準備周到であった。会議にはNHQを利用することができ、場所も宿から近く便利だった。実際、環境視察では日本語で話が聞けて理解が深まったし、今後のプロジェクトを想定した場合、タバさんと知り合いになれたことは評価できる。 会議では、水とゴミに関しては相手側のニーズがあり、興味深く聞いてもらえた。 水質検査は、当初する予定ではなかったため、準備不足があった。
<b>総評</b>
ネパールスカウトに交通やプロジェクト場所に関して全面的に頼りっぱなしであったが、彼らの大きな協力によって充実したプロジェクトとなった。

## 行動記録報告

9月3日

時間	場所	項目	詳細
7:30	フジゲスト	起床	
8:03	フジゲスト食堂	朝食	
10:50	ロビー	集合、出発	フジゲストにカンティプルローバーが迎えに来ていた。少し歩いて大通りに出てカンティプルが用意したバスに乗車した。
12:02	バグマティ川の上流	到着	山の上まで軽いトレッキング。高度が高いせいか(1500m程度)結構きついと感じるローバーも居た。
12:31	滝	到着	
13:07	トレーニングセンター	到着	【施設見学】 施設自体はかなり古く、崩壊寸前の状態。しかし、修復する費用が不足している。また、周辺には野生のトラがでるらしく、彼らは危険の中でキャンプを実施している。
14:13	水源ダム	環境視察	【視察内容】 カトマンズ住民の飲み水となる水源ダムを視察
15:23		下山開始	雨が降ってきたせいで足元が非常に滑りやすい道を下山した。
15:03	バス乗り場	バスに乗車	
17:05	フジゲスト	到着	
17:15	タメル	買い物	タメルの「千種」という喫茶店でスージャンと休憩をした。
20:06	レストラン	夕食	今回の食事は各自自由に取りことにしたが結局全員同じ店に集まった。
21:11	フジゲスト	到着	
21:26	鈴木氏の部屋	Paxミーティング	次の日の予定 トレーニングセンターの改築について。日本の山中野営場が参考になるのではないかと、という意見が出た。
22:00	各自の部屋	就寝	
<b>体調不良者</b>			
<b>評価反省</b>			
ネパールスカウトでもなかなか行く機会のないトレーニングセンターを見ることができてよかった。			
<b>総評</b>			
本来、一日休みを取る予定であった為、体力的な心配もあったが、結果的には各自体を動かす事で頭をリフレッシュさせる事ができた。			

## 行動記録報告

9月4日

時間	場所	項目	詳細
7:00	フジゲスト	起床	
8:00	フジゲスト食堂	朝食 一部買い物	植樹用のスパッツを購入に行った者もいた
9:52		出発	徒歩
10:06	NHQ	到着	カンティブルローバーは既に待っていた。バクタブルローバーの到着を待つ間バスの上に苗木を積む。小雨が降り出した。
10:36		出発	バクタブルローバー交通事情で遅刻する。
11:13	キルティブル	プロジェクトエリア到着・植樹	〔植樹活動〕 従来行われていた方法を学び、日本側からも新たな方法を提案した。結果両方を試し、その動向を探ることとした。今回の目的は地すべりを防ぐ、森を復活させる事である。植樹地は従来ネパールローバーが活動してきた皇太子の土地であり、彼らにはこの土地を保護する義務がある。実際地すべりが起こっており、その後段々畑状に花壇が作成されていた。植樹地の上にはコンポストも作成されていた。
13:35		休憩・お茶	ネパール紅茶を飲む。ランチボックスが配給され軽食をとる。サンドイッチ、ゆで卵、スナック、甘いお菓子。
14:18		プロジェクトエリア	再び植樹、以前植えた木の手入れも行う
16:00		Uma Maheshuwar 寺院	ヒンズー教の寺院を見学
17:00		出発	カンティブルローバーの用意したバス。
17:45		到着	
17:50	フジゲスト	スーザンとミーティング	〔内容〕 今日の植樹の感想・意見の交換 知識、経験、技術のシェアが出来た。新たな提案、改善点を発見することが出来
18:04		出発	徒歩
18:13	レストラン	夕食	
20:30	フジゲスト	到着	
21:00	鈴木氏の部屋	Paxミーティング	次の日の予定 バクタブルの予算の問題 日本クルーとして何をどれだけ負担するかについて 今日行った植樹について
22:55	各自部屋	就寝	
<b>体調不良者</b>			
なし			
<b>評価反省</b>			
植樹活動は体力を使うので、余裕のある日程を組んでおいた。次回の植樹予定地を目で確認できて良かった。日本のメンバーに植樹に関する知識と経験が不足していた。			
<b>総評</b>			
実際に植樹を行ってみて、今後のプロジェクトに向けて各自可能性を見出す事ができた。			

## 行動記録報告

9月5日

時間	場所	項目	詳細
6:30	フジゲストハウス	起床	
7:30		朝食	
8:00	NHQ	到着	徒歩で移動
8:25		出発 バクタプル	バクタプルローバーによるバスで移動
9:10	バクタプル植樹地の麓	到着	到着地から徒歩で植樹地に向かう。少し平地を歩き、その後ヒルのいる険しい山を登る。急斜面に苦労した日本クルーメンバーもいた。
10:20	植樹地	到着	【植樹活動】 果樹園を作りたいのだが、季節が合わなかった為、森の再生をため、果樹園の予定地とは違う場所(森の再生を目的とする植樹)で行った。去年植えた苗は75%~80%の着床率だそう。植樹地に昨今できてしまった池を上手く利用すれば冬もここから水を得る事ができるのではないかとバクタプルスカウトは考えている。日本クルーは持参したキットで土
12:11		下山	登山道よりは、少し長めだがなだらかな道を通り下山。
12:33	バクタプル植樹地の麓	到着	
12:45	売店	休憩・お茶	ネパール紅茶を飲んで休憩する。
13:25	レストラン	昼食	カンティプルローバーと別れ、徒歩でバクタプルスカウトが手配してくれたレストランに向かう。
14:52		出発 バクタプル市街	徒歩で移動
15:30	DHQ	到着・休憩	多く動いたので両国のローバーとも疲れがみえてきた。
16:05		会議	予定には無かったが時間があったので急遽、昨日のTalkingプログラムの続きをこちらから提案した。 【内容】 1) 植樹地の活用方法・果樹園について ネパールのスカウトは1月以降果樹園を開園して果物を売り、村人たちの利益にする事を考えている。 2) 池の活用方法について せっかくできた池なので植樹した木の水源にするなどアイデアを出し合った。  鈴木はバクタプルスカウトの役員とプロジェクト費
17:23		会議終了・出発	町のお祭りで混雑した広場をタクシーにて移動。
18:25	フジゲスト	到着 自由時間	
19:00	レストラン	夕食	
21:00	鈴木氏の部屋	Paxミーティング	次の日の予定 バクタプルとのプロジェクトコスト
22:00	各自の部屋	就寝	
<b>体調不良者</b>			
大田黒、ヒルにかまれる 榊原、下痢			
<b>評価反省</b>			
日程的にちょうど疲れが溜まってきていた。植樹では互いにお互いの植樹地と方法を見ることで勉強になったし、地元スカウトの数多くの参加があった。空き時間を上手くTalkingプログラムに有効活用できた。			
<b>総評</b>			
一方で、プロジェクトコストの問題がありながら、ローバーどうしでは植樹を通して友好関係を築き、今後のプロジェクトに向けて建設的な意見交換ができた。			

## 行動記録報告

9月6日

時間	場所	項目	詳細
6:30	フジゲスト	起床	
7:30	フジゲスト食堂	朝食	
8:30	ロビー	集合	
9:18	バクタブル	到着 観光	池、Dauber Square、3つの博物館。町の骨董品や宗教が見学。
12:53		昼食(バクタ氏による招待)	学校の屋上で昼食の招待を受ける。
13:55		チーフ・帽子のプレゼント	バクタブルスカウトのチーフをもらう。
14:06	Evelest English School	カルチャープログラム	【内容】 生徒によるダンスや歌のプログラム 日本クルーは童謡「大きな栗の木の下で」を教える
14:54	小学校	訪問	カブスカウト世代の子供とつかの間の交流
15:20		到着	お茶をいただく
15:37		救援物資を配給	米や衣服などの配給セレモニーに立ち会う
15:46	DHQ	フォトセッション	バクタブルスカウト関係者全員と写真撮影
16:15		県知事との会談	鈴木と会談
16:33		出発	タクシーにて移動
17:24	フジゲスト	到着	
17:30	フジゲスト食堂	ミーティング	スージャン、カンティプルリーダーと 【内容】 1)今日の活動について・個人的意見 活動の第一歩として良い経験ができたし、今後の可能性が広がった。 2)プロジェクトコストについて ネパールのスカウトとして、今後プロジェクトを続けるにあたって最も問題なのは費用である。
20:00		夕食	近くのレストランからやきそばとチャーハンを出前した。
21:45	メンバーの一室	Paxミーティング	次の日の予定 最終会議にむけての打ち合わせ。 各自のタスク(会議用の原稿作成など)を分担し作業を行った。
	各自の部屋	仕事が終わる次第就寝	
<b>体調不良者</b>			
榊原、下痢			
<b>評価反省</b>			
学校の生徒によるカルチャープログラムは、よく準備されていて楽しむことができた。 夜のカンティプルローバー2名とのミーティングでは英語力の不足で、うまく言いたい事が伝えられなかったメンバーがいた。			
<b>総評</b>			
ローバーだけでなく、若い世代のスカウト達と交流できたことは、日本のメンバーにとっても、ネパールの子供たちにとっても良い経験となった。			

## 行動記録報告

9月7日

時間	場所	項目	詳細
7:00	フジゲスト	起床	
8:00	フジゲスト食堂	朝食 自由時間 各自食事	自由時間はお土産の買い物
13:15	ロビー	集合	
13:45		到着	徒歩
14:15		チーフなどのプレゼント	カンティブルローバーからプレゼントをもらう
14:20	NHQ	会議開始	<p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 各グループ (PaxIV・カンティブル・バクタブル) の紹介</li> <li>2) プロジェクトの経緯やこれまでの活動</li> <li>3) 今回実際やってみてどうだったか 両国ローバー全員一人ずつ発言の機会を持ち感想を交換した。</li> <li>4) NEWプロジェクトの可能性 3グループそれぞれの視点でたくさんの可能性が見出せた。</li> <li>5) 次のプロジェクトの方向性を「水問題」「ゴミ問題」「農業技術」の三点に収斂し、合意を得た。</li> </ol>
16:30		会議終了	日本クルーメンバーの数人が浴衣に着替えた。梅本はネパール女性ローバーの制服と浴衣を交換。着替えに予想以上に時間がかかってしまった。
17:00	NHQの脇の建物	日本文化レセプション	<p>【内容】</p> 日本茶・菓子、笛、折り紙(つる、紙飛行機)
19:20	フジゲスト	到着 スーザンとミーティング	<p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 今回のプロジェクト全体の感想 友好関係が築けて嬉しい。ネパールスカウトの協力を非常に感謝している。この国の人々が自分の国を誇りに思い、より良くしようという姿勢や、やる気に刺激された。</li> <li>2) お互いのクルーの弱点について 英語力、出発前のコミュニケーションの不足が挙げられた。</li> </ol>
20:00	レストラン	夕食・Paxミーティング	今日のまとめ 次の日の予定
<b>体調不良者</b>			
榊原、下痢			
<b>評価反省</b>			
最終会議は初めて議長を出した会議であったがほぼ予定どりのスムーズに進行できた。日本文化レセプションのため、女性ローバーが浴衣に着替えるのに時間がかかってしまった。			
<b>総評</b>			
ネパールローバーとのプロジェクト最終日として、うまくまとまったコンテンツであった。今後の活動に関してのアウトラインを決定した。これからも長く協力したプロジェクトを実施していくことが可能となった。			

## 行動記録報告

9月8日

時間	場所	項目	詳細
7:30	フジゲスト	起床	
8:00	フジゲスト食堂	朝食 自由時間	買い物、パッキング
12:00	ロビー	集合・チェックアウト	
12:30	レストラン	昼食	タメルにある日本料理屋「ふる里」で久しぶりに本格日本食を味わう。卵丼を頼んだローパーの一人は慌てて具を床に落としてしまうハプニングもあった。
14:01	フジゲストハウス	出発	タクシーはフジゲストハウスから手配した。
14:15	ホテル・ヒマラヤン	到着・チェックイン 自由時間	HAT-Jがまだ到着していなかったため、二部屋のみチェックイン。ホテルの周辺にあったJICAや国連を訪ねてみたが、休日でも閉まっていた。
18:00	メンバーの部屋	集合	
18:56	レストラン	夕食	ホテル近くのレストランで夕食を取る。
19:36	ホテル・ヒマラヤン	ウェットレックと打ち合わせ・HAT - J到着、顔合わせ	16日にネパールでゼネストが行われるという情報が出発前からあり、それに対応して旅行会社ウェットレックの古野氏と日程的な打ち合わせをした。
20:04	各自の部屋	パッキング	ホテルに置いていく荷物との仕分け
21:00	クルーリーの部屋	Paxミーティング	次の日の予定 16日のゼネストによる日程の変更について
<b>体調不良者</b>			
榊原、下痢			
<b>評価反省</b>			
ホテルが必要以上に高級であったと感じたものもいた。使わない荷物を仕分けしてホテルに置いておくことが良かった。			
<b>総評</b>			
時間的に余裕のある一日であったので後半のHAT-Jとのプロジェクトに向けて程よく休息することができた。			

## 行動記録報告

9月9日

時間	場所	項目	詳細
5:00	ホテル・ヒマラヤン	起床	モーニングコールがかかる
5:15		荷物を部屋の外に出す	
5:30		朝食	バイキング形式
6:00	ロビー	集合	荷物をバスに積み込む。ホテルに置いておく荷物を移動させる。
6:20		出発	バスに全員で乗って移動。ザンムーに向かう。
7:23	ガススタンド	トイレ休憩	HAT-J式ではゴミは全て持ち帰るのが基本
8:55	喫茶店・カリチャール	休憩	お茶を飲み、トイレ休憩。脇には水かさの増えた川が勢い良く流れていた。
9:27		出発	
11:20	コダリ	到着(1900M)	国境の町。バスは一度も道路決壊などにより停車することなく順調に到着した。着くとポーターが荷物を運び出し、自分達は手荷物のみ運ぶ。
12:07		昼食・出国手続き	国境の橋を渡る。橋の真中に赤い線が引いてあり、国境の目印としていた。
13:08	中国ザンムー	入国審査	グループビザの名簿順に列を作り、中国入国審査を受ける。パスポートと写りが違うメンバーは入念にチェックを受けた。中国側では待ち受けていた5台のランドクルーザーに乗り込む。さすがにここからはランクルでなければ移動不可能な山道である。滝の中を通ったりもした。
16:43	樟木飯店(ホテル)	到着(2223M)	テレビ、トイレ、シャワーが各部屋に設置されている。時差のため時刻を変える。
18:00	ロビー	高度障害対策の説明	血中酸素飽和度の測定器・ガモウバックは高度障害対策でウェットレックで用意されていた。血中酸素飽和度は、毎朝・夕、測定し、表に記入しチェックする。
19:30	ホテルのレストラン	夕食	久しぶりの中華料理の食事であった。
20:45	クーラーの部屋	Paxミーティング	次の日の予定 体調不調者の確認
21:30	各自の部屋	ミーティング終了	宿のシャワーは8時以降4時間しか温水が出ないためここでのシャワーは控えた。
22:00		就寝	
<b>体調不良者</b>			
鈴木、かぜ 榊原、下痢			
<b>評価反省</b>			
バスに乗っての移動であったが、当初予想されていたような道路の決壊が無かったために、カトマンズかコダリまで一度もバスを下車する必要がなく助かった。			
<b>総評</b>			

## 行動記録報告

9月10日

時間	場所	項目	詳細
8:00	樟木飯店	起床	
9:00		朝食	中国風の朝食。おかゆやチャパというクレープ状の食べ物などを食べる。
9:20		出発準備	車に荷物をのせる。
10:00	ロビー	集合	昨日と同じメンバーと運転手で移動する。ボーイスカウトは4号車(榊原・伊賀・大田黒・三木)と5号車(鈴木・岡村・梅本)に分かれて乗車。
10:30		ザンムー出発 渋滞	出発早々、次から次へとトラックが狭い道を占領し、なかなか動けなかった。
12:20	ニエラム(3690m)	到着	ニエラムはザンムーよりだいぶ小さな町である。宿の周りにはこじんまりとした商店、食堂、寄宿学校などがある。高度のため、空気がだいぶ薄くなってきて、少し早く動くと思苦しく感じる者もいた。
12:45	食堂	昼食	中華料理。
13:31	宿	チェックイン	トイレは屋上に設置されており、部屋にはベットと机が置いてあった。他の外国人客も利用していた。
14:00	宿の前	集合・散歩に出発	体を高度に慣らすための散歩にでかける。
14:45	3845m	散歩・トレッキング	軽い散歩と聞いていたため、ボーイスカウトのメンバーは軽装備で臨むと、予想以上にきついトレッキングとなった。高山植物がたくさん咲いていた。
15:20	3900m	登頂	富士山を越えた高度。
15:55	4004m	登頂	初めての4000mという高度に感激した。少しすると風が吹いてきて寒くなってきた。
16:55	宿	到着 自由時間	疲れを取るために温かいお茶を飲んで休憩。ここで高度障害予防のため避けねばならない睡眠をすっかりとってしまった大田黒は高山病にかかる。
19:03	食堂	夕食・Paxミーティング	次の日の打ち合わせ
21:20	ネパール人の店	お茶	ネパール人の店でネパール紅茶を飲む
22:00	各自の部屋	就寝	高度障害予防のため、就寝2時間前から深呼吸をし、できるかぎり暖かい格好で入念な対策をして眠った。
<b>体調不良者</b>			
大田黒、高度障害			
<b>評価反省</b>			
初めての高所を体験し、メンバーそれぞれ体調の変化が現れてきたが高度障害対策の知識をHAT-Jの方から吸収することができた。体を慣らすために行われた「散歩」はボーイスカウトのメンバーにとっては予想以上に大変だった。			
<b>総評</b>			
高度でのトレッキングは高度環境に生息する草花と触れ合う貴重な機会でもあった。たいていの人はこの時点ではうまく高度に順応して過ごす事ができた。			

## 行動記録報告

9月11日

時間	場所	項目	詳細
8:00	ニエラムの宿	起床	起床し、高山病の症状がないか各自確認する
9:00	食堂	朝食	中華風の朝食をとる。
10:00	宿の前	集合 トレッキングに出発	昨日より少し高い山を目指す。昨日の反省をもとに装備を整えて出発。
10:45	付近の橋	ここから登山	町とは川をはさんだ向かいの山に登山。川の脇には村中から来たと思われるゴミの山があった。
11:00	3793m	登頂	尾根づたいに登っていく。
11:37	3900m	登頂	頂上が見えたと思ったらすぐ更に上が見える。高山植物がたくさん見受けられる。エーデルワイスの残骸も発見した。空気が薄く、かなりゆっくりとしたスピードで登るが、それでもこまめに休憩を必要とした。
12:30	4251m	登頂	風が強く、岩の陰に隠れながら全員で休憩をした。だんだん気温が下がってきたので下山を開始させる。
13:10		下山開始	周りにはヤクなどの動物もたくさんいた。町ではそのような動物の糞を燃料に利用しており、家の壁に丸く形を整えた糞の塊がたくさんくっついていていた。
14:30	宿	到着	
14:50	食堂	昼食	中華風の昼食をとる。
15:20		食事終了	
16:28	メンバーの部屋	Paxミーティング	次の日の予定 報告書について 疲れてはいたものの、睡眠は高度障害の敵なのでできるだけ起きてるようにし
17:01	食堂	お茶	高度障害予防に水分補給も大切なポイントである。一日2リットルの摂取を目標とした。
18:50		夕食	一部メンバーは公共のシャワー室に行きシャワーを浴びた。清潔で温水が出た。
22:00	各自の部屋	就寝	深呼吸をしてから睡眠。
<b>体調不良者</b>			
大田黒、高度障害 鈴木・岡村、腰痛			
<b>評価反省</b>			
今日のトレッキングは昨日の反省を活かし装備を整えて参加した。普段は経験できない高所でのトレッキングは素晴らしい体験であった。			
<b>総評</b>			
余った時間を活用して派遣の報告書の話し合いや作業に当てる事もできたが、疲れや、環境の変化による各自の体調管理のことを考慮しそのような活動を控えた。			

## 行動記録報告

9月12日

時間	場所	項目	詳細
7:30	宿	起床	
8:30	食堂	朝食	中華風の朝食を取った。
9:30	ニエラム(3690m)	出発	いつもと同じランドクルザーに乗って移動。
10:08		休憩	
10:50		4号車オイルが詰まる	道がかなり悪く、自動車に負担がかかっているようだ。近道をしようと脇にずれたら、そこでストップしてしまった。
11:13	5082M	通過	遠くにヒマラヤ山脈が見えた。気温はだいぶ低くなってきた。男性メンバーはボーイスカウトの制服で写真撮影を行う。
12:45		5号車タイヤがバーストする	タイヤを交換。これもよくある事なのか。
13:25	湖	休憩	氷河の溶けた水でできた湖とも言われている。
14:00	ティンリー	到着	ロッジは各部屋日当たりも良く広い。中央に井戸があり、伊賀はそこで洗髪。水浴びをしている現地民もいた。日中はかなり暖か
14:03	食堂	昼食	中華風。
15:00	各自の部屋	荷物整理	ランクルの運転手は自分の自動車の修理を始めた。部品を自分達で勝手に作っている人もいた。
15:30	ティンリー	HAT - J散歩に出発	体調調節の為、岡村・榊原のみ同行
16:12		メンバー散歩に出発	残りのメンバーは近くの村の中心まで行く
16:45	宿	到着	村でHAT-Jに同行したメンバーと合流する。宿に戻る途中、雹が降ってきた。
17:25	メンバーの部屋	お茶会	装備のお茶を飲んで休憩する。」
19:00	食堂	夕食 写真撮影	食後、初めてエベレストが見えたので写真撮影に行く。
20:40	各自の部屋	就寝	夜はかなり冷えこんだので十分温かくして眠る。
<b>体調不良者</b>			
<b>評価反省</b>			
移動中はボーイスカウトの乗車していた4号車5号車ともに自動車の故障が見られたが運転手の方が自分で臨機応変に修理を行ったので目的地まで到達する事ができた。			
<b>総評</b>			
高度障害が各自多かれ少なかれ現れてきた時期であったが、要所要所でウェットレックが用意した血中酸素飽和度を計測する装置で客観的な数値として自分の体調を観察することができた。			

## 行動記録報告

9月13日

時間	場所	項目	詳細
7:36	ティンリー	出発	ランドクルーザーに乗り込む
8:55	National Nature Preserve	通過	関所のようなところ。ここからエベレスト国立公園である。
9:32	5045m	通過	エベレスト山脈の壮大な景色が臨める。
11:05	バスム(4278m)	休憩・軽食	田部井進也さん高熱でここに待機。日中はかなり暖かく半そででも十分な気候であった。
13:05		出発	
14:08	ロンブク僧院	到着	エベレストの大パノラマが私達の目の前に広がる。
14:22		出発	一気にベースキャンプまで向かう。
14:32	エベレストBC	到着 視察	ベースキャンプの環境(特にゴミやトイレ)に気を配りながら視察。三木が不注意で川で転ぶ。空気が相当薄く、急いで移動した者は頭痛に見舞われた。
17:20		到着	電気は設備はあるが、機能していない。調子を崩す者が増えた。
18:28	ロンブク僧院	ゴミの検証	ベースキャンプで拾ってきたゴミを仕分けして検証した。
18:52		田部井さんらと写真撮影	田部井さんは、進也さんのいるBasumに高度障害で厳しい状況にあった大田黒・岡村をつれて戻る。
19:45	食堂	夕食	チベット料理のトゥパ。うどんのような料理。
	各自の部屋	就寝	非常に冷えたので温かくして就寝。
<b>体調不良者</b>			
大田黒・岡村、高度障害			
<b>評価反省</b>			
各自体調管理をするのが大変であったが、天気も良く、エベレストを目の前に絶景を堪能する事ができた。一方環境視察としてベースキャンプのゴミやトイレをひとつおりにチェックする事ができたがその際チェックシートのようなものを用意すれば効率的であったかもしれない。			
<b>総評</b>			
エベレストを目の当たりにするといった、めったに体験することのない本当に貴重な体験ができた。各自高度障害の中でいかに集団行動として動くかがポイントであった。			

## 行動記録報告

9月14日

\* 田部井進也さんの調子が悪く、全員で夜中からザンムーまで下山する事に決定。  
 その際、進也さんの使用した酸素ボンベを借りたチベット山岳協会に返す為、神崎さんとHAT-Jのユース年代の小川さん・伊賀・三木はバスマに残った。  
 緊急事態のため幾つかのグループで別行動をとることとなったので別々に記載する。

時間	場所	項目	時間	場所	項目	時間	場所	項目
3:15	宿	緊急に起床						
3:48	ロンブク僧院	出発						
4:12	バスマ	到着						
< 鈴木・岡村・榊原・梅本 >			< 大田黒(田部井進也さん) >			< 伊賀・三木(神崎さんなど) >		
5:02	バスマ	出発	4:42	バスマ	出発	4:55	バスマ	仮眠
5:22		3号車脱輪	6:00	パンダ峠	通過	8:45		起床
6:38	パンダ峠	通過	7:05		給油	10:30		チベット山岳隊到着
7:25		給油	8:02		休憩	12:15	バスマ	出発
9:00	ティンリー	朝食	8:18	ティンリー	朝食	12:48		給油
9:55	ティンリー	出発	8:46	ティンリー	出発	14:05	パンダ峠	通過
11:45	ニエラムトンラ	休憩	10:30	ニエラムトンラ	通過	14:55		給油のために運転手と一時別れて散歩
13:08		到着	11:23	ニエラム	到着	15:23		運転手と合流
13:55	ニエラム	お茶	11:32	ニエラム	出発	16:15	ティンリー	休憩
14:25		出発	12:43	ザンムー	到着	16:03	ティンリー	出発
16:00	ザンムー	到着	19:30	宿の部屋	ミーティング	18:36	ニエラムトンラ	通過
19:30	宿の部屋	ミーティング				19:28	ニエラム	通過
						21:45	ザンムー	到着
						22:00		夕飯
22:45	クルーリーの部屋		Paxミーティング		今日、別々に行動した各グループの記録を確認しあう。報告書の作成についての打ち合わせ。			
<b>体調不良者</b>								
伊賀・梅本、高度障害								
<b>評価反省</b>								
緊急に夜中の3時に起床しすぐに出発しなければならない事態となり、しかも3班に別れての移動となったが、各自できるかぎりのスムーズな対応をとれた。ザンムーに戻り、田部井進也さんをはじめその他の各自の高度障害も緩和された。								
<b>総評</b>								
かなりの長距離を一日で下ってきたので非常につかれる大変な移動となった。しかし、ネパールでのゼネストのことを考えると日程的な面で上手い具合にザンムーに戻ってくることができた。								

## 行動記録報告

9月15日

時間	場所	項目	詳細
7:30	宿	起床	
8:30	食堂	朝食	中華風の朝食を取る。
9:43	ザンムー	出発	荷物を積み込み、ランクルでの移動最後となる。
11:18	中国ネパール国境	運転手との別れ	ずっと付き添ってくれた運転手たちとの別れ。彼らから白いシルクの布切れをプレゼントされる。これは別れの際のチベットの風
9:28	ネパール	入国手続き	ネパール時間に変更する。
9:30	レストラン	入国カード記入	用意していたものが使えず新しいもの書き換える。
10:08	コダリ	出発	行きに乗ってきた同じバスで移動。
13:07	レストラン	到着	カトマンズ盆地入り口の外国人用レストランが立ち並ぶ中の一つで食事をする。ゼネスト直前のため、周りには警察や軍隊が警備している。
15:03		出発	
16:30	ホテル・ヒマラヤン	到着	
17:02	クルーリーの部屋	集合	HAT - Jは先にタメルに買い物に出かける
17:13		出発 タメルに買い物	ホテルのタクシーを利用したため少し割高になる。
17:29	タメル	到着 自由時間	買い物
18:15	マーケットの前	集合	鈴木、大田黒、梅本先にHATとの待ち合わせ場所に向かう
18:32	ホテル	HAT-Jと合流	徒歩でレストランに向かう
18:50	レストラン	夕食	HAT - Jが紹介したレストランで食事をする
20:05		出発	各自タクシーで移動
20:30	ホテル・ヒマラヤン	到着	
22:03	クルーリーの部屋	Paxミーティング	次の日のフォーラムの準備 ベースキャンプでのゴミやトイレの環境について、見てきて感じたものをまとめた。 報告書について
<b>体調不良者</b>			
梅本、耳の痛み			
<b>評価反省</b>			
ネパールに入ってからゼネストの影響を見て午後のタメルでの買い物を実行するかどうかを決めたが安全面では少し不安な部分もあった。日程を当初の予定より1日早くカトマンズに戻ってきたためにこの日の夕食代の負担について多少混乱があった。			
<b>総評</b>			
結果として全員無事にカトマンズに戻ってくることができてよかった。高度障害や情勢面での安全への配慮が非常に必要となった旅であった。			

## 行動記録報告

9月16日

時間	場所	項目	詳細
7:00	ホテル・ヒマラヤン	起床	
8:00	ホテル・レストラン	朝食	パッキング、報告書の作業
12:00	ロビー	集合・昼食	
13:09	ホテル会議室	HAT-Jフォーラム	環境視察をふまえたフォーラムをボーイスカウトの提案により実現。
13:12		田部井氏基調講演	田部井さんご自身の体験から環境問題について語られた。
13:43		神崎氏基調講演	「冒険」という視点から面白いお話を聞かせていただいた。
14:10		分科会	ユース年代は3グループに分かれてディスカッション 【内容】(意見交換) 現状は現代的なゴミが多く見られた。ゴミを集めても川に捨ててりして意味がない。トイレは、紙とし尿が混ざって、垂れ流されている。今後、伝統的に良いもの(糞の燃料利用など)を残して、新しく良いものを取り入れていくのがよいと考える。
15:10		コーヒーブレイク	コーヒー、紅茶、クッキー
15:35		各グループの発表	伊賀・下奈さん(HAT-J)・榊原・三木が発表
15:52		全体会	分科会を踏まえて神崎さん、田部井さんのお話 【内容】 体験したことをどう生かしていくか、が大切である。広い視野で世界を見られるような若者に育てほしいと言う願いがある。それぞれの土地の習慣を押し付けるのは良くないが、地球がひとつになるこのグローバルな社会で、一番良い方法は何か模索していかねばならない。
16:17		ミキさんのお話	HAT-Jのゲストとして迎えられたネパール在住でNHKの通信員をしていらっしゃるミキさんから、ネパールの実情を生々しくお話ししていただいた。
16:34		フォーラム終了 写真撮影	ホテルの中庭にて撮影会
18:10		ホテル中庭	ミキさんとPax会談
19:00	ホテル・レストラン	夕食	
20:15		食事終了	
20:30	クローリーの部屋	Paxミーティング	報告書についての話し合いの後各自作業を行った。
21:02		スーザンに電話	
	各自の部屋	各自就寝	パッキング、報告書の作業
<b>体調不良者</b>			
榊原、下痢			
<b>評価反省</b>			
ボーイスカウトによる提案でHAT-Jによる「ユースエベレスト環境視察フォーラム」が実現できてよかった。スカウト以外のユース年代との意見交換が出来た。			
<b>総評</b>			
フォーラムを通して田部井さんや神崎さん、ミキさんの興味深いお話を聞く事ができ、さらに自分達が見てきたもの体験してきたものと合わせて環境についてじっくり考察する機会を得ることができて充実した時間を過ごせた。			

## 行動記録報告

9月17日

時間	場所	項目	詳細
7:00	ホテル・ヒマラヤン	起床	
7:30		朝食	
9:03		鈴木・岡村タメルに出発	NHQに向かいAPRの国際コミッショナーに
10:02		鈴木・岡村ホテルに到着	会いに出かける
10:10	クルーリーの部屋	集合	岡村からAPR会談の報告
10:30	ホテル・ヒマラヤン	荷物を出す 出発	別の便で日本に帰るHAT-Jが見送ってくださる。
11:43	ネパール・トリブバン空港	到着	タクシーにて移動。
11:45		チェックイン	ウェットレックの古野氏と偶々同便だったので同行する。
11:56		両替	ルピーをドルに替える。
12:00		出国審査	ゼネストの影響で、かなり厳重に審査された。
12:47	搭乗口	セキュリティー審査、搭乗	手荷物の中味も検査され、ライターも没収された。
14:06	機内	離陸	TG320
16:23	バンコク・ドンムーア空港	着陸	タイ時間に変更
20:10	空港内レストラン	夕飯	
20:30		Paxミーティング	報告書、合宿について。帰国してすぐに報告書の為の合宿を開くことにした。
22:05		終了	
22:18	空港内	荷物検査	
22:55	搭乗口	搭乗	搭乗口に歩いていく。
23:14	機内	離陸	TG642
7:07	成田空港	着陸	日本時間に変更
7:35		荷物受け取り	花岡さん、岡村さん(母)、市河、青木が出迎えて下さる。自動車で移動
9:23	岡村の団ルーム	到着	千葉県の富里
9:24		解散セレモニー開始	派遣最後のセレモニーを実施する。各自感想を述べる。
9:33		解散セレモニー終了	
9:35		ミーティング	[内容] 来てくださった関係者の方に簡単な報告をした。 報告書について、合宿前にできる内容を確認しまとめた。
<b>体調不良者</b>			
なし			
<b>評価反省</b>			
ウエットレックの古野さんに同行していただいたこともあり、とてもスムーズに移動ができた。また、バンコクでの空き時間を利用して報告書についての話し合いを持つことができた。			
<b>総評</b>			
みな無事に帰国することができた。空港に出迎えてくださった方々には大きな感謝をしてお礼を言いたい。解散セレモニー後も協力して活動を行っていかなければならない。			

## 6. 全体の評価・反省

上記<1>3の目的にそった派遣全体としての評価反省を以下に記載する。

### <カトマンズ近郊部落の生活環境の改善>

視察を中心とした行程により地域の生活環境を実際に見聞することができた。ネパールスカウトと協力の植樹プロジェクトにおいては住環境の改善という視点では、地滑りの防止に役立つ樹種を植樹することができた。

地域の生活環境改善に必要と思われる、トイレ施設や飲料水設備といったものの施設整備など今後ネパールスカウトとの協力によって改善が期待されるものを理解でき、今後のプロジェクトに対する可能性が開けた。

村人と接する機会が少なかったため、意識調査やニーズ調査といった直接的なプロジェクトは行うことができなかった。

### <自然環境保護活動>

視察・調査を通して現在ネパールで問題になっている生活廃水、ごみ問題、地滑りといったものが明確になった。これらを解決することが自然への悪影響を減らし、保護につながると考えている。

実活動として行った植樹では、今後現地で暮らす人々への自然保護に対する考え方、その啓蒙方法を考えることが必要になってくる。そのために、植樹と言う行為が自然にどういった影響を与えるのかと言う事を調査し、データ・数字を用いて科学的根拠を公開する必要性も挙がってきた。

### <ネパールの人たちとの国際文化交流>

ネパールスカウトには日本文化レセプションを通じて日本の文化を多少なりとも伝えることができた。そして我々もプロジェクトを通してネパールの文化に触れることができた。

しかしながら、そもそも「文化」という言葉自体があいまいな言葉ではあるが、我々が日本文化を明確な私たちでもっとよく知る必要はあり、同時にそれをどう伝えるか考えねばならない。そしてお互いのよりいっそうの友好関係のためにも事前にもっと現地の習慣、時代背景などを調べる必要がある。

今回はスカウト以外の現地の住民とは接する機会が少なかったため、あまり交流はできなかった。

### <ネパール連盟スカウトと提携した国際協力>

派遣期間を通してネパールスカウトと共に活動を行ったことで彼らとの連帯感が生まれ、今後のプロジェクトにつながる可能性を手に入れた。また、それと同時に我々の活動の必要性や問題点も共有でき、お互いに良い刺激を得ることができた。

しかしながら今回、我々からはプロジェクトの提案と概要を提示しただけで、ほぼ全面的に彼

らにプログラムのアレンジを任せてしまった。今後は詳細に関しても共同で計画していく必要がある。

### <プロジェクトの継続性>

プロジェクトを通して彼等との友情が深まった。同時にネパールスカウトが持つ地域環境改善に対する志の高さ、熱意を知り、協力し合えることを確認した。これで、ネパールスカウトと提携し、プロジェクトを行っていくことは十分可能になった。

また、我々としても彼らと対等な立場で活動していくためにより一層の知識と経験を得、多くの協力者を得ていくことが必要である。そして今後継続していくためにも数年先のことも見据えた計画を立てていく必要がある。

### <HAT-Jのユースエベレスト環境視察>

当初 50 人ほどのアジア各国のユース年代が集まる予定であったが、各国情勢などの理由から日本人大学生がスカウトを含めて 11 名と、HAT-J 会員のみの参加となった。よって当初とは少し異なった形で実施された。

視察ポイントはチョモランマ・ベースキャンプを含め、そこに至るまでの中ネ友好道路周辺である。我々はゴミの分別とその処理方法、トイレ、水まわりを中心に視察を行った。結果としてはプロジェクト報告にて詳細を記すが、大変多くの問題点を見つけた。

そして視察最終日に時間に余裕があったので、フォーラムを行うよう提案した。HAT-J は快く受理してくれ、視察を通して、環境に対する問題点を提示、改善案の発表を行うことができた。

このフォーラムを通じて他の参加者との意見交換や、エベレストの環境に詳しい田部井さん、神崎さん方の講演なども聞くことができ、大変有意義なものになった。

また、この結果は HAT-J より世界山岳協会の環境フォーラムにて発表されることになる。

世界最高峰であり、人々の憧れでもある EVEREST。今回の決議を生かして、その環境を守り改善していけるかを多くの人々に伝えていく必要がある。

### <全体を通して>

当初立てていた計画は現地での調整、諸事情により大幅に改定されたが、派遣全体を通してネパールおよび山岳地域の様々な問題点を発見し、次回へとつながる大変多くの可能性を拡げることができた。今回は特に視察や今後への展開の足がかりとなるプロジェクトを実施したが、この目的は十分に達成できたと言えよう。準備、知識の不足も多々あったが、今後それらを改善していくことによって、より充実したプロジェクトを行うことができる。

日本のユース年代スカウトが自ら企画、実施、評価、提言までを行い、他国の環境問題について考え、問題解決を図ったこと。そして世界のスカウトとのつながりをより深めることができたことは評価に値すると考える。

## 7. 総括

本派遣は非常に多くの点でこれまでの海外派遣にはないポイントを持ち合わせたものとなった。

まず、企画実施に至るまでの工程において、そのほとんどがローバースカウトによるものであり、それぞれの能力を生かしながら常に新しい意見を組み入れることが出来た。特にプロジェクトの内容に関しては大学年代のスカウトであるということもあり、それぞれの専門分野での知識や、最新の情報を取り入れることが可能となり、活動の幅を広げることが出来た。また過去にバングラデシュ派遣など日本連盟主催の海外派遣経験者などにより派遣全体の企画・運営も比較的スムーズに行うことも可能となった。

次に、これまでの日本連盟や各県連盟、もしくは地区などによる主催ではなく、有志のスカウトグループによる派遣ということで、参加者の所属する地域が非常に多岐にわたることが挙げられる。先般より日本はもとより、海外においてもユース年代の活動として地域の枠を超えて活動することの必要性や可能性が取り上げられており、様々な有識者や指導者による奨励もなされているが、この形態での海外派遣の実施はおそらく日本では初であり、実際問題として非常に多くの難題に取り組むこととなった。結果としては責任者の所属する県連盟を通しての申請ということになり関係各所の多大な尽力をもって派遣を実現することとなった。

その他にも様々な事項があるが、上記からも見られるように、本派遣の実現をもって明らかになった様々な苦労や問題点がある。今後のユース年代の活動がさらに活発になるためにも取り組まなければならないプロセスの整備や改善点なども同時に明らかになったことから、本派遣の成果はスカウトにとってはもちろんのこと、指導者としても得ることが出来たものは非常に多くあることであり、大いに評価できる。

今後は今回の評価反省を元に、ユース年代のスカウトがそれぞれ取り組んでゆかなければならないこと、及び指導者並びにスカウトの活動を支える者として取り組んでいかなければならないことをさらに明確にし実践し、各所への提案を行っていくことによって、今後のユース年代の活動の活発化を通してスカウト運動の発展につながることを期待したい。また、本派遣を通じて得ることの出来た友好関係をまずはアジアのユースの協力関係の発展に寄与できることも期待したいと考える。なお、本文書は行動報告をするためのものであり、プロジェクトの最終報告は別途作成することとしている。

最後に本派遣の実現に当たり尽力をいただいた、国内外の関係各方面の方々に改めて感謝を申し上げます。